

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 130	提案機関名 横須賀市大楠漁業協同組合
<b>要望問題</b> アカモク養殖について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 佐島地区では、5年前からアカモクを製品化しており、ワカメや昆布とは食感が異なるアカモク製品は人気商品になっている。しかし、漁業者1軒当たりの生産量の増加と生産する漁業者の人数の増加により、アカモク資源の枯渇が懸念されている。実際に、2～4月の今漁期は、アカモクの繁殖量が非常に少なく、生産量も伸び悩んでいる。 一方で、ワカメは、天然ワカメの収穫だけでなく、養殖することにより、漁業者の冬場の安定した収入源となっている。そこで、アカモクについても、安定的な生産体制を築き、ワカメ養殖と同様に冬場の収入源として定着させるため、アカモク養殖の実用化に向けて、試験に取り組んでいただきたい。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	水産技術センター	<b>担当部所</b>	企画資源部普及指導担当
<b>対応区分</b>	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合) 漁業の担い手育成			
<b>対応の内容等</b> 当センターでも、平成26年漁期は全県的にアカモク繁殖量が少なかったことを把握しております。また、漁業者が収穫して製品化するアカモクは、受精して種子を放出する前の状態であることから、製品需要の増加に伴う増産に応じて、アカモク資源の枯渇が懸念されます。 そこで、平成26年3月より、「アカモク養殖試験」として、様々なロープ等への基質にアカモクを種付けし、これをアカモク種苗として用いた養殖試験を計画しています。現時点で、アカモク種苗の魚類等による食害等の問題点もありますが、順次解決を試みて、3年以内のアカモク養殖の実用化を目指してまいります。			
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>			